

今回の「お気持ち」の表明を受け、第一印象はどのようなものだったか。

あらためて、天皇陛下は戦後の民主的な市民社会を象徴していると、感じました。

昭和天皇は、戦前と戦後というまったく異なる二つの時代を生き、新憲法が導入された時点で、象徴とされました。

しかし、今の陛下は即位されたときから、象徴であることを求められました。過去になかったことですから、象徴としてどのように振る舞うべきかというモデルや見本があったわけではありません。陛下は常に、象徴とはどうあるべきかを、真剣に模索してこられたと思います。

その中で、陛下がこだわられてきたのが、国民に寄り添うことだと思います。戦争の死者と遺族や自然災害の被災者に心の底から寄り添い、悲しみや苦しみを分かち合ってきたのです。

私たちの多くは、「天皇とは何か」ということを、今の陛下の姿を通して理解しています。

確かに、そうした陛下の姿はニュースなどで報道され、多くの日本人の心の中にあると思います。そうですね。しかし、それは簡単

国民の“支持”は健全 高齢化を考える契機に

山内昌之 ● 歴史学者

天皇陛下の「お気持ち」の表明を議者はどう受け止めたのだろうか。政府の皇室に関するヒアリングにも参加した歴史学者に聞いた。

Interview

ではないのです。陛下は万事をゆるがせにしない方ですから、全てに公平であろうとされています。全国を回って、誰の悲しみや苦しみも区別することなく受け、それを「気」としてご自身の中に蓄積され

ていくわけですから、体力、気力共に相当な質量が要求されるはずで、義務感の強い方ですから、ご自身が真剣に模索されてきた象徴であることが不十分になることへの不安が、お言葉につながったのではないかと思います。

もう一つ感じたことは、日本社会が高齢化に直面している事実をあらためて、陛下により国民全体も認識する機会になったということだと思います。

——どういふことでしょうか。

誤解を恐れずに例えると、陛下の状況は、企業であれば社長や会長職を本来ならとくに引退している年齢の方が、平社員何十倍も働いているようなものです。こういう状況が許されるのか。似たような状況は多くの企業や組織では考えられないでしょう。

陛下が思いを率直に表明されたことで、日本国民は、高齢化時代に自分はどうあるべきかを考えるきっかけを与えられたと思います。

家族へのお気遣いも非常に印象に残りました。



やまうち・まさゆき／東京大学名誉教授。内閣官房「皇室制度に関する有識者ヒアリング」に参加。

天皇家は最も長い家系を誇る存在であり、今も万世一系の皇統を担うわけです。その一方、民主主義国家の象徴でもあります。だからこそ、今回、われわれ一般の国民と同じように、家族への思いも強く示されたのではないのでしょうか。

従来、天皇は生まれてからすぐに、乳母により育てられてきたのですが、陛下は皇后さまと共に、皇太子さまをはじめお子さまを育ててこられました。そういう意味では、家族を大事にし、いたわる陛下のお人柄が見えた表明でもありましたね。

国民は陛下のお優しい姿勢や、お人柄を知っています。だからこそ、今回の表明に対して世論調査では9割近くの人たちが支持しているのでしょう。それは非常に健全な反応だと思います。